
素直に言えたなら

orange

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素直に言えたなら

【Nコード】

N1734B

【作者名】

Orange

【あらすじ】

私には、片想いの男の子がいて、今回こそ告白しようと、試みる。しかし、その子には、彼女がいて……。切ない純情ラブストーリー。

「好きです」

ずっと伝えられなかった

この一言を

今日は

勇気を出して伝えます

このまま

何も言えずに恋が終わるのは

嫌だから

今日はあなたに

この一言を

伝えます

「相談って何？」

正直、ここまで上手く事が運ぶとは、思わなかった。

「相談したい事があるんです」

そう言っつて、先輩を呼び出したのも、親友である希望のぞみの提案があつてのことだった。

私には、一年間片想いの先輩がいる。名前は、片倉卓磨かたくらたくま。

私より一つ上で、同じ吹奏楽部だ。でも、先輩は三年生なので、今月あった定期演奏会で引退してしまっていた。

「あーあ。先輩に会えないよ」

希望にそう嘆くと、希望はあっさりど、

「告白しちゃえば？」

と言つてのけた。

「え！ そんな事出来ないよ」
私はうるたえた。

だって、先輩に彼女がいる事を知っていたから。
告白した事で、迷惑をかけたくないと、希望に言つと、

「告白されて、迷惑だと思つう人はいないんじゃないかな。たとえ、
その人に彼女がいたとしてもさ」

優しく答えてくれた。

「だから、告白しちゃうなよ。結果が悪かったとしても、素直な気
持ちを伝えられれば、それだけですつきりできると思つよ」

希望のその言葉で、決心がついた。

「私、頑張ってみる」

あの時、言つてれば何か変わったかもしれないのに。なんて一生
後悔するのだけは嫌だから。

そして、放課後。相談があるので、先輩を呼び出して、この状
況になったという訳だ。

「ねえ。相談つて何なの？」

先輩が、もう一度繰り返す。

「……どうしよう。希望はどう告白すればいいかなんて教え
てくれなかった。」

ここは、ストレートに『好きです』って言えばいいのかな。

しばらく黙り込んでしまった私に、痺れを切らしたのか、先輩は
言った。

「美香ちゃん。それっていいニュース？ それとも悪いニュース？」

やっぱり男の子って鈍感なんだな。よし、単刀直入に言おう。

私は決意して、口を開いた。

『好きです』

そう言つつもりだったのだが、なぜか急に恥ずかしくなって、口
を閉じてしまった。

それから、何回か試みるも、どれも失敗に終わった。

金魚のように口をパクパクしている私を見た先輩が、

「頑張れ」

笑いながら励ましてくれた。

『私がこんな滑稽なまねをしているのは、先輩のせいなんですからね』

そう言えたら、どんなに楽だろう。

自分の素直な気持ちを伝えるのをためらってしまう自分がいた。

「美香ちゃん。どうしても言えないんだったら、紙に書いてきてもいいんだよ」

先輩の心遣いが嬉しい。

でも、私、この気持ちは直接伝えたいんです。

あなたを目の前にして言えたなら、気持ちの整理も、きつとついでしよう。

「もう少しだけ、待って下さい。文字じゃなく、言葉として伝えたいんです」

私は、きちんと先輩の目を見ながら言った。

先輩は、分かったと言って、あとは黙っていてくれた。

私は、大きく深呼吸をする。

今までの、先輩に対する想いを、全て伝えたい。

それは、ただ、あの一言だけ。

「好きです」

やっとの事で、言えた。小さな声だったけれど、先輩から目を逸らしてしまっただけれど、言えた。

先輩は、驚いて、目を丸くしている。

ちゃんと聞き取ってくれたんだ。私は嬉しかった。

先輩が口を開くよりも早く、私は言った。

「先輩に、彼女がいる事は知っています。でも、どうしてもこの気持ちを伝えたくて。こんなに他人の事、好きになれたのなんて、初めてだったから。迷惑、じゃありませんでしたか？」

今度は、先輩が黙り込む番だった。

素直に自分の気持ちを伝えるのが、こんなにも難しい事だなんて、知らなかった。

でも、言えて、すっきりしてる。結果なんて、目に見えてるけど、この気持ちを伝えられた。それだけでも満足だ。

「迷惑って事はない。でも、今の俺は、彼女が一番だから。ごめんな」

しばらく経ってから、先輩からでた結論はそれだった。

「いいえ。でも、私、勇気出して頑張ったんですから、なにかご褒美下さいよ」

「もう。しょうがないなあ」

先輩は、私の頭をぐちゃぐちゃにした。

「これからも、仲良くしような。俺は美香ちゃんの彼氏にはなれないけど、友達だったらなれるよ。先輩と後輩の関係よりは上って事で」

とても嬉しかった。恋は実らなかったけれど、私は友情を手に入れた。

「ありがとうございます！」

自分の気持ちを、素直に伝えられて、よかった。心から、そう思った。

(後書き)

文法的に変なところがたくさんあります(汗
興味を持って下さった方。ありがとうございます。

よかったら、感想お願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1734b/>

素直に言えたなら

2011年1月17日19時41分発行